

小規模・高齢化集落支援モデル事業の取組事例

大分県^{ゆふし}由布市（由布市^{かわにし}川西集落連携促進協議会）

1. 協議会の概要

（平成22年3月作成）

協議会名		由布市川西集落連携促進協議会	
構成員	市町村名	大分県由布市	
	小規模・高齢化集落名	奥江 ^{おくえ} 集落	26名
	協定集落名	下津々良 ^{しもつづら} 集落	31名
	その他構成員	大分県(中部振興局)	
対象農用地面積 1.6ha		田 1.4ha	畑 0.2ha
交付金額(H21総事業費) 17.2万円		水路、農道等保全管理支援事業 支援活動推進事業	
			草地等 — 15.2万円 2.0万円

2. 取組の概要

■地域の概要

由布市は、大分県のほぼ中央に位置し、平成17年10月に隣接する3町が新設合併し市制が施行され、全国有数の温泉観光スポットである湯布院地域をはじめ、旧3町の一体感の醸成に向けたまちづくりに取り組んでいます。

農業においては山間地域を多く抱え、水稻を主体に施設園芸、畜産等が営まれており、現在、由布市では63協定、1,326haで中山間地域等直接支払事業を実施しているとともに28地域、1,639haで農地・水・環境保全向上対策事業に取り組んでいます。

（平成22年3月1日現在 15,119世帯 人口36,613人 面積319.16km²）

奥江集落は、由布市西部の湯布院町川西地区に位置する山間地域で、集落戸数18戸、農家戸数4戸、高齢化率50%であり、労力不足による農地の管理や農道・水路の維持、保全活動に支障が出ており、耕作放棄の防止や地域資源の保全が大きな課題となっています。

下津々良集落は、奥江集落と同じく川西地区に位置する山間地域で、山あいを縫うように農地が点在し水稻主体の農業が行われています。平成14年度から中山間地域等直接支払事業に取り組んでおり、現在は32戸の参加者により、21haの協定農用地の保全をはじめ、水路改修や鳥獣害被害防止対策等に取り組んでいます。

■活動に至った経緯

生活面における繋がりは深いとは言えませんが、同じ校区内にあることから、まちづくり組織を核として住民参加を通じた交流が図られています。

同地区内にある集落であることから、下津々良集落協定役員への説明を行うなかで、奥江集落の現状を十分理解し、意欲的に活動支援の意向を示したことから、奥江集落の自治役員を中心に事業実施へ向けた話し合いを行い、平成20年9月4日、協議会の設立総会を開催し活動計画等を決定しました。

■保全管理活動の概要

平成20年度

- ・9月16日 農道草刈り作業実施
- ・11月18日 水路草刈り、泥上げ清掃作業実施
- ・1月20日 農道草刈り作業実施
- ・2月6日 農道保全管理作業(バラス敷き)実施
- ・2月7日 水路泥上げ作業実施
- ・その他、降雨後の水路見回り等実施

平成21年度

- ・4月6日 水路清掃・通水作業実施
- ・5月14日 水路崩壊箇所補修及び水路見回り実施
- ・8月9日 農道草刈り作業実施
- ・2月25日 水路補修作業(U字溝埋設)実施
- ・2月28日 農道保全管理作業(バラス敷き)実施

■活動に取り組んだ後の効果

連携した活動は人海戦術であるため、支援集落の存在は労働的、精神的に大変有効なものとなっており、作物の生育状況や集落協定による共同取組の情報交換、栽培技術の伝授など活動を通じた交流が一層深まっています。

また、2年間を通じて農道及び水路の補修を実施することができ、農業生産活動の利便性が向上するとともに、本事業を契機に地域づくりの機運が高まり活性化に向けた取り組みが始まっています。



奥江集落の風景



協議会設立総会



農道草刈り作業



水路泥上げ清掃作業



水路草刈り作業



農道バラス敷き作業